

第22回観光戦略実行推進会議 御説明資料

道後温泉旅館協同組合
理事長 新山 富左衛門

平成30年8月31日

1. 平成30年7月豪雨の道後観光への影響

- ・道後温泉は、物理的な被害は受けていないが、公共交通機関の不通や風評被害により、7月の宿泊者数は対前年比76.4%となり、8月も70～80%の見込みである。
- ・道後温泉インバウンド全体では、対前年比95%。国別では、中国96%、香港62%、台湾77%など、毎年宿泊数が多いアジア圏は、近くて反応が早い為、落ち込みの割合が高い。



2. 平成30年7月豪雨後に講じている対策

- ・災害発生直後の7月9日、愛媛県ホテル生活衛生同業組合と協同で、松山市内の加盟旅館やホテルに協力を呼びかけ、各施設から寄せられた支援物資のタオル約2000枚を、大洲市に提供。
- ・7月12日、愛媛県災害対策本部より依頼があり、大洲市へ、愛媛県社会福祉協議会を通じてタオル500枚送付。
- ・愛媛県・松山市と協同で、避難所で生活する愛媛や広島の子どもや保護者を対象に、道後温泉など松山市内の観光地に招待するツアーを実施(8月20日～月末)。20世帯64名を受入れ。(広島県から43名、愛媛県から21名(保護者同伴))



3. 政府の対策への意見・要望

- ・四国全体に風評被害は波及しており、宿泊助成制度の対象を愛媛、高知だけでなく、被災を受けていないが、香川、徳島に対しても全体が良くなる何らかの制度をお願いしたい。
- ・本四架橋、四国内の高速道路等の通行料金の割引を一定の期間だけでもお願いをしたい。(ETC割引の割引率の拡大もしくは、時間限定の割引を24時間割引に拡大するなど)